

2026年5月10日

～毎月10日は人権を考える日～

「戦争は最大の人権侵害」である

先日の新聞に、東京都武蔵野市の松田春廣さん(100歳)が、徴兵検査の日に味わった「屈辱」を80年以上経った今でも覚えているという記事があった。1925年、6人兄弟の3番目に生まれて脳性麻痺で手足に不自由があり、言葉を発することにも困難があった。そのため、両親はよく松田さんを背負って映画や公園に連れていき、可愛がってくれたという。そんな生活の中、戦争が忍び寄った。1944年、徴兵検査を受けるため、父親に背負われて会場に向かったそうだ。会場の検査官には「天皇陛下のためだから」と言われ、ほかの数十人と一緒に裸になり、2時間ほどあちこちを調べられた。結果は「兵役に適さない」とされる区分の「丁種」だったそうだ。松田さんは、「それはとても恥ずかしいことであって、私は悔しい思いをした」と肢体障害者による戦争体験証言集「米食い虫、非国民とのしられながら」(全国肢体障害者団体連絡協議会 2004年)で、この時のことをこう回顧している。なぜわざわざ検査を受け、「不合格」という辱めを受けなければならなかったのか。検査への疑問を何度も口にしたとのこと。戦時中には、このようなことが全国で行われたのであろうと想像する。

当時、人権というものが考えられていたのであろうか。否である。そこには、お国の役に立つか、立たないか、そんな基準で人としての価値がはかられ、ふるい分けられたということだ。戦争は、何の恨みもない人と人が殺し合う。戦争では、戦争している理由さえ分からない子どもたちまで巻き込まれて殺される。あってはならないことが行われるのが、戦争だ。第二次世界大戦後、国際連合が結成され「世界人権宣言」が掲げられ、日本では「基本的人権の尊重」、「平和主義」、「国民主権」を軸とした「日本国憲法」が制定された。これらは、戦争の惨禍を二度と起こさないようにとつくられたものだ。そして、人間が人間らしく生きていくために必要な「人権」について規定している。

世界情勢を見ると、安易に他国を非難したり、攻撃をしたりする傾向にあると思われる。これでいいのだろうか、不安になる。一人ひとりが真剣に「人権」について考える時がきているのではないだろうか。ある講演会で講師から聞いた言葉を思い出す。『人権は、「家族」や「健康」などと同じく、失ってみて初めて、その大切さを実感できるものです。』しかし、失ってからでは遅いのだ。一人ひとりが、責任をもって考えていかなければならない。

(出典：朝日新聞 2026年3月22日)